



第 31 号

2001年9月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



製鉄炉下部施設（西から）

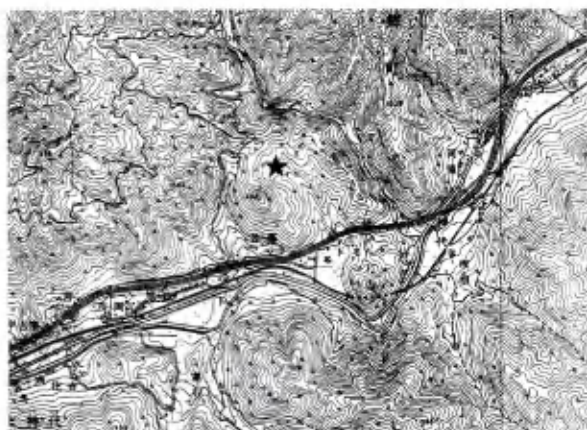
備北地区で初発見！古墳時代の製鉄炉 —上神代狐穴遺跡—

かみこうじんあな
上神代狐穴 遺跡は阿哲郡哲西町上神代にあり、高梁川支流の神代川周辺に広がる平野部から北方の谷沿いに約800mほど山に入った、標高370mの谷間に所在します。そして、平野からの比高差は約25mあります。

この遺跡は岡山県遺跡地図では周知されていませんでしたが、平成12年8月に岡山県古代吉備文化財センターが中山間地域整備事業に伴い確

認調査を実施し、古墳時代後期の遺構・遺物が検出されたため、平成13年4月から6月上旬まで850㎡を対象にして発掘調査を実施いたしました。

遺跡は、谷川に向かって比較的急峻に下る山裾の傾斜が変換する狭い段丘上に占地し、一部の遺構は現林道に削平を受けていました。



上神代狐穴遺跡位置図

検出した遺構は、製鉄炉の下部施設4基・焼土塋3基・炭窯1基・作業面2面など、10基余りです。

炉の下部施設は4基発見されました。それらの構造は、土塋を石で囲い込むものと石敷きして石で囲うものの2種類が、各2基ずつ認められました。4基ともに赤く被熱した排滓溝と考えられる溝を短辺の両側に伴っています。また、炉1（以下下部施設省く）と炉2の間隔は20cm程度とほとんど接していて、土層断面の観察から炉1が古く、炉2の方が新しいこと、そして排滓溝の切り合いから炉3の方が炉1よりも古いことも判明しました。なお、炉1・炉2・炉4の平面形は楕円形です。これらはほぼ同じ大きさで、石囲いの内径で測ると長径150cm、短径100cmあります。

この遺構群の時期は、直接伴う遺物がない（確認調査時でも同じ）ものの、遺構検出面上部から出土した須恵器・土師器の年代に従えば、6世紀末頃と推定できます。

焼土塋は3基ありますが、いずれも壁が良く焼けていて、炉1・2の土塋より大きく、時期が降るほど炉の下部施設が大きくなる傾向にあるとすれば、古代くらいまで新しくなる可能性もあります。

炭窯は煙道を2個持ち、平面形が扇形をしています。床面から明治時代以降の針金を伴出していて、昭和初期まで炭を焼いていたと言う古老の話と附合します。

遺跡全体では、遺物として須恵器・土師器が

少量出土しているほかに、鉄滓・炉壁が大量に出土しています。

今回備中北部でははじめて古墳時代後期の製鉄遺跡が発見されましたが、一番近い時期の総社市奥坂千引カナクロ谷遺跡との比較検討が今後の課題です。
(浅倉秀昭)



写真2 炉1下部施設（東から）



写真3 炉2下部施設（東から）



写真4 炉4下部施設（北西から）

局地風が吹く弥生時代中期の集落跡 —勝北町・山ノ奥遺跡—

山ノ奥遺跡は勝田郡勝北町上村に所在し、勝北町総合スポーツ公園の南東隣に位置します。発掘調査は農免農道整備事業（上村山形地区）に伴って、平成13年4月から行っています。

遺跡は加茂川左岸の標高180m前後の低丘陵上に立地します。これまでに丘陵の東斜面から尾根上にかけて調査を行い、縄文時代の可能性のある落とし穴、弥生時代中期後半（今から約2100年前ごろ）の竪穴住居・建物・段状遺構・溝・木棺墓群、中世の建物群・鍛冶炉などを確認しました。なかでも弥生時代中期の遺構数が多く、広範囲にわたっていることから、丘陵全体が弥生時代中期を中心とする集落跡であることが次第に明らかになってきました。

竪穴住居は丘陵の東斜面から尾根南側にかけて検出し、平面形が円形・楕円形の住居を5軒（うち焼失住居を1軒含む）、一辺が2～4mで方形・長方形を呈する住居を9軒確認しています。そのうちの1軒は楕円形を呈し、長径が約11.2mを測る大形の竪穴住居でした。復元される床面積は約84.9㎡で、25.7坪に相当し、住居の中で5人作業しても大変広々としています。この大形住居からは弥生土器のほかに、土器片を再利用した紡錘車、サヌカイト石鎌、大型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧・磨製石包丁の完成品や未成品、叩き石、石鎌や石斧を製作する

ときに生じる剥片（石屑）などが出土したことから、石器製作跡と考えています。これらの石器の未成品は、原材料に近いものから完成品に近いものまで見られるため、具体的な石器の製作技術を知る上で良好な資料と言えます。

また竪穴住居に隣接して、斜面を造成して平坦面を作り出した段状遺構を18基確認しました。段状遺構はほぼ同一の高さの等高線に沿うように連続的に配置されています。平坦面上には1間×5間や1間×4間の建物を伴うものもあり、高床建物の可能性があります。

さらに丘陵の北東部では木棺墓群が見つかり、同一丘陵内に墓域が存在することが明らかになりました。墓は小口穴（木棺の小口板を固定するための穴）を持つものがあり、木棺を備え付けていたと考えられます。墓は今のところ8基確認しており、いくつかの墓群に分かれています。一つの墓群は、比較的少ない墓数で構成されて、さらに大小さまざまな墓があることから、一家族の墓地であった印象を受けます。

遺跡周辺では那岐山上空から「広戸風」という局地的な突風が吹き下ろし、今夏の台風11号が上陸した際にもこの風に悩まされました。丘陵上にある弥生時代の集落で「広戸風」に堪え忍びながら自然を受け入れて暮らしていた当時の人々の姿が想像されます。（米田克彦）



大形の竪穴住居



木棺墓群

鉄製の刃先をつけた？木製品 —津島遺跡—

今の世の中で、土を掘る時には必ずといってよいほど鉄でつくられた道具を使います。工事現場の大型掘削機はそれこそ鉄の塊のようで、一度に多量の土を動かすことができます。ところで、私たちの祖先は、いつ頃から、このように鉄の道具を利用して土を掘るようになったのでしょうか。今回、津島遺跡の調査で、ヒントをひとつ得ることができました。

津島遺跡は、岡山市内の岡山県総合グラウンドを中心とする位置にある遺跡です。昨年、1年の歳月をかけて発掘調査が行われ、弥生時代後期（約1800～1900年前）の河道から多数の木製品が出土しました（詳しくは前号をご覧ください）。

写真（図1左）は、弥生時代後期の河道から出土した木製の農耕具です。このタイプの農耕具は、上半部の形がちょうどナスビのヘタに似ていることから、ナスビ形農耕具と呼ばれています。写真のものは、二股になった刃が橋でつながったような形をしており、珍しい例といえます。ところが、よくよくその刃先を観察してみると、少し段がついていることがわかります

（図1右）。出土した時には気が付かなかったのですが、洗浄後、これを発見したときはびっくりしました。なぜなら、これは鉄製の刃先を装着した痕跡ではないかと考えたからです。

弥生時代は、木を加工する道具として石と鉄が使用された時代ですが、後期になると鉄製の道具が以前にもまして利用されはじめました。岡山県では倉敷市上東遺跡から出土した木製の鋤の先に鉄製の刃先が装着された痕跡を観察することができます（ただし鉄製の刃はついていませんでしたが）。鉄板の両端を折り曲げた形の刃先をつけていたものと考えられ、図2の左のように復元できます。今回出土したナスビ形農耕具の刃先にも同様のものが装着されていたのでしょうか。

そこで、このナスビ形農耕具に鉄の刃を装着した復元図を描いてみました（図2右）。弥生時代の農耕具で、鉄の刃を装着した痕跡のみられる農耕具の出土例は全国的にみても数少ないのが現状なのですが、先の上東遺跡のものにくらべ、なんとなく違和感を覚えるのは私だけでしょうか。今後の検討課題です。（金田善敬）



図1 津島遺跡出土のナスビ形農耕具

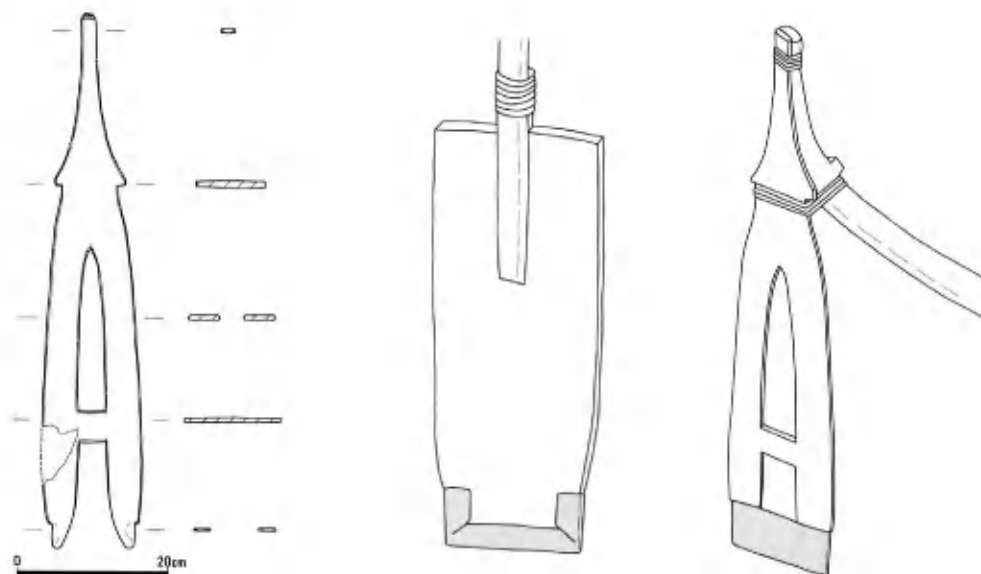


図2 鉄製の刃先を装着した農耕具の復元例

センターの活動から

最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会

今年も「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」を8月4日（土）に岡山県生涯学習センターにて開催しました。この報告会は、市町村教育委員会の協力も得て、県下において発掘調査が行われた遺跡のスライドを映写し、紹介しています。当センターの埋蔵文化財の普及広報活動の一環として、昭和63年度から開催しており、今回で14回目の開催になります。

当日は、約180名の参加者があり会場が満席となりました。また、調査担当者自身による報告でもあり、熱の入った発表と参加者みなさんの質疑応答など、会場は夏の暑さに負けないほどの熱気にあふれていました。

当日報告を行った8遺跡は次のとおりですが、弥生時代の集落・水田、古墳、須恵器の窯跡、古代の役所関係、中世の居館、近世城郭など、時代も内容も地域もバラエティーに富んだ紹介ができたのではないのでしょうか。

- | | |
|------------------|----------|
| (1) 津島遺跡（岡山市） | 県文化財センター |
| (2) 高越遺跡 | 井原市教育委員会 |
| (3) 牛塚古墳・市後遺跡群 | 総社市教育委員会 |
| (4) 大塚5号墳 | 美作町教育委員会 |
| (5) 寒田窯跡4号 | 倉敷市教育委員会 |
| (6) ハガ遺跡 | 岡山市教育委員会 |
| (7) 久田堀ノ内遺跡（奥津町） | 県文化財センター |
| (8) 岡山城二の丸跡（岡山市） | 県文化財センター |



熱気を帯びた会場



受付の様子

このたび、今後の報告会運営や当センターの埋蔵文化財普及広報活動への一環として、アンケートにより報告会参加者の声を集めました。

報告会へのご意見・ご要望としては、「県内各地、複数の遺跡の調査概要を一度に知ることができた。たくさんの遺跡の説明をしてほしい。」という反面「報告遺跡数を少なくして1遺跡の報告時間を長くしてほしい。」というものもありました。さらに、「出土したもののスライド」や「出土品の現物展示」などの要望も多くありました。このほかにも多種たくさんのご要望が寄せられています。

また、今後の埋蔵文化財の普及活動への希望としては、発掘調査現場の現地説明会の開催が最も多いものでした。可能な限り多くの調査現場で説明会を開催していきたいと思えます。

報告会および普及広報活動に対するこれら寄せられた声を参考にして、今後も、より一層、地域に根ざした埋蔵文化財の活用を目指していきたいと考えています。



パンフレットが出来ました

このたび当センターでは、3つの遺跡をわかりやすく説明したパンフレットを、それぞれ新たに作りました。

1冊目は『発掘された久田の埋蔵文化財Ⅱ』で、苦田ダム関連の発掘調査をまとめています。縄文時代から近世にいたるまで、時代ごとにまとめられた説明は見応えがあります。2冊目は『津島遺跡を語る2』で国体の主会場となる岡山県陸上競技場の改修に伴う発掘調査の成果をまとめています。調査成果はもちろんのこと、発掘調査から整理作業までの流れがわかるようになっています。3冊目は『百間川の遺跡探検』で、旭川放水路関連の長年にわたる発掘調査成果をまとめています。中に出てくるかわいいキャラクターも好評です。どのパンフレットも全ページオールカラーで、わかりやすくまたくわしく説明されています。

これらのパンフレットは、当センターにお越しくださった人に、配布しています。みなさんも、ぜひご利用ください。



最近刊行された報告書

当文化財センターでは、昨年度末に新たに9冊の報告書を刊行いたしました。江戸時代の岡山の町が復元できる『天瀬遺跡・岡山城外堀跡』や、弥生時代の波止場状遺構が発見された『下庄遺跡 上東遺跡』、総合グランド内の北池・南池の調査成果をまとめた『津島遺跡3』など、他にも話題になった遺跡・遺物も多く、内容も多岐にわたっています。

これらの報告書は、県総合文化センターや岡山市立中央図書館あるいは県下各市町村教育委員会は勿論のこと、各都道府県の関係機関などにも配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。

内容などの詳細については当センターへお問い合わせください。

- ①『原尾島遺跡 沢田遺跡』 一般国道2号藤原交差点他改良に伴う発掘調査
- ②『天瀬遺跡・岡山城外堀跡』 一般国道2号京橋共同溝他建設に伴う発掘調査
- ③『船山遺跡』 県道西大寺備前線交差点改良工事に伴う発掘調査
- ④『岡谷大溝散布地 三須今溝遺跡 三須河原遺跡 三須島田遺跡 井手見延遺跡 井手天原遺跡』 国道429号線改良に伴う発掘調査Ⅱ
- ⑤『下庄遺跡 上東遺跡』 主要地方道箕島高松線道路改築に伴う発掘調査2
- ⑥『上東遺跡』 主要地方道箕島高松線道路改築に伴う発掘調査3
- ⑦『平田遺跡』 県営北房町圃場整備事業に伴う確認調査
- ⑧『津島遺跡3』 北池・南池地点の発掘調査
- ⑨『旦山遺跡2』 岡山県北流通センター造成工事（南区域）に伴う埋蔵文化財発掘調査

H・Pで古代吉備にまゝ、来られ～!



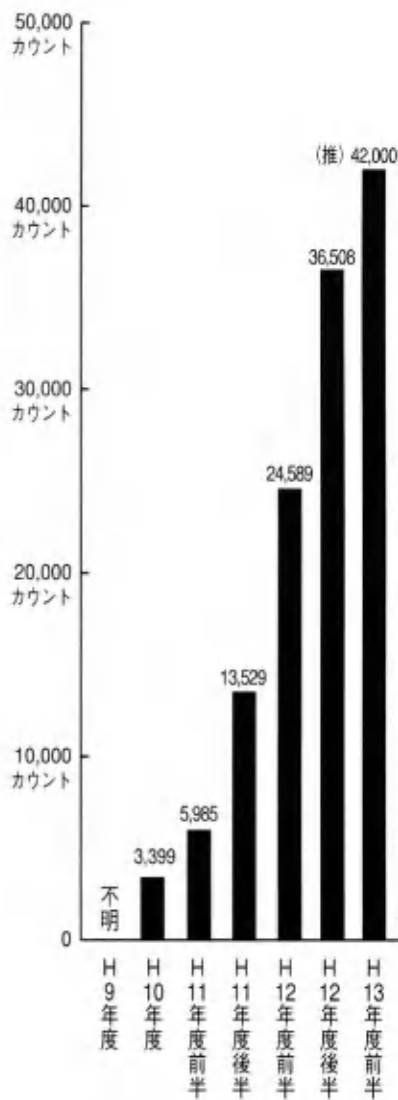
なんと開設は
5年目になるんじゃ

センターでは、平成9年度にホームページを開設してからすでに5年目を迎えようとしています。今年度のアクセス件数は、おかげさまで平均して1ヶ月間に約6,000件もあるのです。(職員も知らなかった、このアクセスの多さ!)もう皆さんはご覧になって下さったでしょうか。

このホームページはセンターの紹介や、その年に県内のどこで発掘調査が行われるのかがわかる一覧表、刊行図書の案内などから始まりました。開設された翌年度には、「古代吉備を探る」の連載が、昨年度には「所報「吉備」」の掲載が始まるなど、内容も年々充実してきています。また、センター主催の現地説明会に来ていただくことができなかつたというかたのために、説明会資料や写真も随時掲載するなど、更新も度々行われるようになりました。

そのかいあってか、最近ではあちらこちらでリンクをはってもらえるようになりました。もし、当センターのホームページを見たことがない方、1年に1回位しか見ないというかたは、もしかしたら少し損をしているかも知れません。よろしければ、もっとホームページに遊びに来てください。

こちらへ!
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>



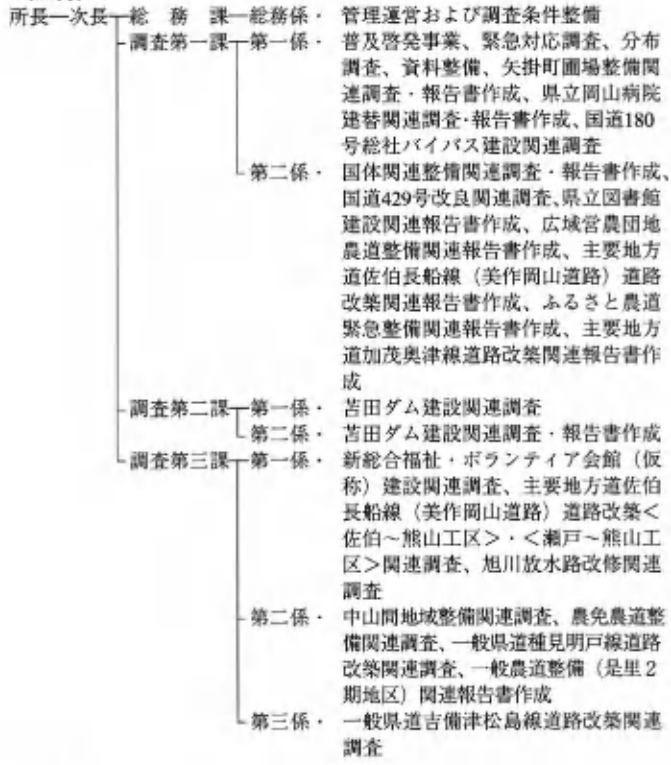
ぎょーさんの
人に
見てもろー
とるん
じゃーねー。
ふむふむ。



アクセス件数の推移

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成13年度)

<組織>



<職員>

- 所長 正岡睦夫
 次長 能登原巧
- 総務課 長 安西正則
- 総務係 長 田中秀樹
 主任 小坂文男
 主事 志摩尚史・中塚廣佳
 中川 清・中瀬宜孝
 高島久義
- 調査第一課 長 高畑知功
- 第一係 課長補佐(係長) 平井泰男
 文化財保護主査 宇垣匡雅・大橋雅也
 文化財保護主任 柴田美樹(岡山市へ派遣)

- 文化財保護主事 津津幸司・渡邊恵里子
 河田健司(岡山市から派遣)
 物部茂樹・小林利晴
 尾上元規(文化課本務)
 重根弘和
 馬路晃祥
- 第二係 課長補佐(係長) 島崎 東
 文化財保護主幹 内藤善史・光永真一
 文化財保護主査 亀山行雄
 文化財保護主事 金田善敬・岡本泰典
 蛭原啓介・時實奈歩
- 調査第二課 長 伊藤 晃
- 第一係 課長補佐(係長) 二宮治夫
 文化財保護主幹 福田正継・岡本寛久
 赤井義典・佐来信也
 三船幹也
 河合 忍・上格 武
- 文化財保護主査 主事
- 第二係 課長補佐(係長) 中野雅美
 文化財保護主幹 江見正己
 文化財保護主査 榎田俊朗
 文化財保護主任 弘田和司・常安 伸
 文化財保護主事 根木智宏・佐藤寛介
 主事 和田 剛・白神賢士
- 調査第三課 長 柳瀬昭彦
- 第一係 課長補佐(係長) 下澤公明
 文化財保護主査 藤田裕文・高田恭一郎
 文化財保護主事 小嶋善邦
 主事 松村さを里
- 第二係 課長補佐(係長) 山磨康平
 文化財保護主幹 浅倉秀昭
 文化財保護主任 澤山孝之
 文化財保護主事 杉山一雄・米田克彦
 主事 若林 学
- 第三係 課長補佐(係長) 岡田 博
 文化財保護主幹 井上 弘
 文化財保護主査 徳田正紀
 文化財保護主任 奥野光廣・氏平昭則
 文化財保護主事 三宅健夫・松尾佳子
 主事 大熊美穂・関 幸代
 稲谷知子



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター
 所在地 〒701-0136
 岡山市西花尻1325-3
 TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>
 ●交通案内
 ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
 ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
 開館時間 AM9:00~PM5:00
 休館日 土曜日・日曜日および祝日・年末・年始